

## 令和4年度活動方針（案）について

## ■ 令和4年度活動方針（案）

当事者とともに地域移行・地域生活支援における課題を考える

## 【提案理由】

令和元年より、自立支援協議会では「当事者」を視点とした活動方針を立て、取組を行ってきた。令和4年度は、令和3年度の本会議で出された課題や事例にフォーカスをあて、地域移行や地域生活支援の取組の中で、具体的にどう推進できるかを話し合う。

## ■ これまでの振り返り

## ○ テーマ

## 【第6期】（令和元年・2年度）

都と地域の協議会活動における情報共有を促進し、当事者とともに東京の協議会活動を活性化させる

## 【第7期】（令和3・4年度）

都と地域の協議会活動における情報共有を促進し、当事者とともに地域課題への取組を考える

## ○ 協議事項 令和元年度：当事者の声を反映させた協議会活動を考える

令和2年度：当事者の多様な声を聴くための具体的な仕組みをつくる

令和3年度：当事者の視点に立って地域課題を検討する

## ■ 当事者が参加しやすい協議会の取組み

## 1 協議会の運営方法の工夫

- ・第6期より取り組んでいる「当事者の方が参加しやすい、声をあげやすい」をベースにし、障害がある人もない人も「聴きたい」、「話し合いたい」というテーマや課題等を設定する。
- ・委員構成や協議会の運営方法等、都の協議会が自ら工夫を重ね、地域の協議会へ発信していく。
- ・会議の開催にオンラインを活用する等、委員の方々が状況に応じて参加方法を選択できる取組を都の協議会として行っていく。

## 2 発言しやすい環境、わかりやすい情報提供

- ・行政説明は簡潔に行うとともに資料等の精査を図る。
- ・事前に説明を行うこと、事前にご意見をうかがうこと等、必要に応じた配慮をして発言しやすい環境づくりに努める。

## 3 発言しやすい小グループをつくる

- ・会議運営のためだけでなく、すべての委員がスムーズに意見交換をできるように、小グループ体制をつくる。